

## 伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第 22 回 まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2026 年 1 月 27 日(火)			
開催時間	開会	9 : 00	閉会	10 : 00
開催場所	市役所 5 階 502 会議室			
出席者				
協議会・WG メンバー	会場： O L : 黒河内貴氏、鈴木孝之氏、政金裕太氏、土田智氏、瀧内貫氏			
事務局・職員	会場：企画部企画政策課 織井邦明課長 有賀慎課長補佐、 村田和也新産業技術推進係長			
関係者	(有)ハートビートプラン代表取締役 園田聡氏 東京大学まちづくり研究室特任助教 新雄太氏			
欠席者	志知貴文氏、細谷啓太氏			
議事	1、次回「対話・つながり・実現の場」に関する講師との打合せ			

議事項目	概要	次のステップ
1、次回「対話・つながり・実現の場」に関する講師との打合せ		
自己紹介	<p>&lt;自己紹介&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WG メンバー、事務局から</li> <li>○園田聡氏 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2004 年創業今年 23 期目を迎える大阪市の(有)ハートビートプランに所属している。</li> <li>・都市デザインのコンサルタント会社であり、公民連携という切り口で、広場、河川、道路といった公共空間の民間活用を推進しており、そういった取組の伴走支援が強みである。</li> <li>・10 年程前に中途入社し、3 年ほど前から共同で同社の代表を務めている。</li> <li>・会社として、5 年前から松本城周辺の三の丸エリアビジョン策定に携わっている。</li> <li>・そのほかに松本市での活動としては、信州大学、松本大学との取組や、高校生、中学生が参加する取組に携わっている。</li> </ul> </li> <li>○新雄太氏 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学工学部都市工学科の特任助教である。</li> <li>・都市計画を教える学科であるが、自分は建築設計がバックグラウンドである。</li> <li>・大学のまちづくり研究室では、アンケートやインタビューを基本にした研究を主としており、社会学的</li> </ul> </li> </ul>	

<p>まちなかエリア 高度化 WG の概 要、これまでの 取組</p> <p>「対話・つなが り・実現の場」 開催案について</p>	<p>な話から物理的な空間をどうするかというハード的な話も対象としている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊那市には何度も足を運んだことがあり、新山地区やまちなかエリアの活動にも少し関わったことがある。</li><li>・UDC 信州のアドバイザーを務めている。</li></ul> <p>&lt;まちなかエリア高度化 WG の概要説明&gt;</p> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊那市では伊那北高校、伊那弥生ヶ丘高校の統廃合をきっかけに官民共創の新しいまちづくり協議会の取組がスタートした。</li><li>・協議会では、新校の校舎となる現伊那北高校の最寄り駅である伊那北駅周辺をどうするか、使われなくなる伊那弥生ヶ丘高校の将来活用をどうするか、両エリアをつなぐ中心市街地のまちづくりをどうするか、の3つをテーマとしており、それぞれワーキンググループで取り組んでいる。</li><li>・われわれは「中心市街地のまちづくり」を担うまちなかエリア高度化 WG である。</li><li>・この WG が関わるものとして、今まで3回、市民が参加する「対話・つながり・実現の場」を開催しており、そこでの対話を通して、「歩きたくなる」、「情報発信」、「多世代がまちづくりに関わる」といったことにテーマが集約されてきた。</li><li>・これから具体的なアクションを起こすという次のステップに進むために、全国で活躍されており、長野県内の事例にも精通されている新雄太さん、園田聡さんにお話を伺いたいという話になった。</li></ul> <p>&lt;これまでにまちなかエリア WG が開催した「対話・つながり・実現の場」の概要と結果、及び今回の「対話・つながり・実現の場」の開催案について、WG メンバーより説明&gt;</p> <p>&lt;説明補足&gt;</p> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回の「対話・つながり・実現の場」の大きな目的は、発散フェーズから集約フェーズに入りたいということである。</li><li>・今回の「対話・つながり・実現の場」をきっかけにして、実際に活動やアクションが起きるためのドライブをかけていきたい。</li><li>・お二人の話を聴いて、具体的な主体につながる動きになるとよいと思っている。</li></ul>	
--	---	--

質疑	<ul style="list-style-type: none"><li>・市の考えていることと市民が考えていることに乖離がある気がしている。</li><li>・伊那市民は市民性が高く、個々にしっかりと意見があり、どんどん活動もしているので、個人の活動と市のビジョンが近づくような流れになるとよいと思っている。</li><li>・市のビジョンと市民やまちづくり会社などの活動がシームレスにつながりながら実態のあるものに近づいていくためのアイデアをお話しいただき、市のビジョンと市民活動につながるイメージができると、アクションを起こそうと思う人が増えるのではないかと思う。</li></ul> <p>○園田聡氏</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「一人ひとりが主役になって自由に活動する環境をつくりたい」ということを大切に考えていると思うが、ディスカッションパートの案に「これまでの都市計画や都市政策を踏まえて」という表現もある。一人ひとりの自由な活動と行政のビジョンや伊那市らしさといったことを接続することにはどんな狙いがあるか。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・朝マルシェや新たなお店が開店しているといった魅力的な活動は結構起きている。それらの活動はバラバラに起きていて、まとまりがないように見えるのも伊那市の特徴であり無理に集約する必要もないとも思っているが、そもそも市のビジョン等に沿って動いたほうがよいかどうかということ自体も議論できたらと思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・行政としては、中心市街地の賑わいを増やすということに戦後ずっと取り組んできたのだと思う。</li><li>・しかし、閉店するお店も増えてシャッター街となり、そもそも中心市街地に住んでいる人たちが賑わいを望んでいるかもわからなくなってきたときに、多分行政としては何をサポートすればよいかわからなくなってしまったのではないか。</li><li>・そこで官民共創の新しいまちづくり協議会が設置されたと理解している。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・松本城三の丸エリアの面白いところは、市民にわかりやすく「ここが三の丸エリアである」と可視化され、10のエリア(界隈)の目指す姿が明確に示されることで市民がどこにどう関わればよいか具体的な活</li></ul>	
----	---	--

<p>講師お二人から のご意見</p>	<p>動のイメージが持てる場所である。そういった仕掛けにより市民の関心が三の丸エリアに向かうというプロセスが素敵だと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊那市でも伊那部宿や歴史的な街区はあるが、松本城三の丸エリアのスケールを伊那市の中心市街地に当てはめるとスケールから外れる位置にある。そういったスケールを中心市街地に置いてみると参加者がイメージを持ちやすくなると思う。</li><li>・伊那市であれば、どんなエリアが描けるのか、個々バラバラの市民活動がこのエリア(界限)ならつながって活動できるのではないか、そういったイメージが今度の「対話・つながり・実現の場」で持てればよいと思う。</li><li>・そういったスケール感と松本市民の関心がどうやって三の丸エリアに向かっていったかというプロセスを知りたいと思っている。</li></ul> <p>○園田聡氏</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・話を伺って状況がより理解できた。</li><li>・新しくやりたいことのアイディアと、すでに長く続けている活動を全部1本にまとめる必要はないと思うが、せっかくなればそれらの活動がシナジーを生むであるとか、緩やかな方向性が共有できていて個々の活動が最終的に全体最適になると、行政が政策的にサポートできると思う。</li><li>・行政が大義名分として「位置づけ」を作るのは然るべきである。一方で「何をどうやるか」の前に「何のためにやるか」を共有することが大切である。それが共有できると、それぞれの活動が勝手に動いてもズレが生じない。</li><li>・松本城三の丸エリアビジョンでは、合い言葉として「誰かに語りたくなる暮らし」という言葉が共有されており、その要素として「偶然の出会い」、「選択肢の多様さ」、「寛容さ」、「街への愛着」、「顔が見える繋がり」がある。</li><li>・例えば「選択肢の多様さ」であれば、スターバックスコーヒーもコマダ珈琲もあるけれど、地元の純喫茶もあるし、若い人がやっているサードウェーブのコーヒー店もある。コーヒー1杯飲むにもそんなたくさん選択肢があることが豊かだと思える。「顔が見える繋がり」であれば、空き店舗対策に取り組んだ店舗で移住者がどんどん新しいお店を始めて個人店が増える、そもそも個人店のオーナーがいること自体に価値があると思える。「寛容さ」であれ</li></ul>	
-------------------------	--	--

ば、表現活動や音楽、クラフトが盛んなので、チャレンジしたくなる環境づくりのために広場や公園、河川空間の規制緩和をどんどんやりましょう、その結果松本は自由にいろいろできるから隣町より松本でやろうと思ってもらえるという理屈で考えたものである。

- ・元々、松本市としてはインバウンドなどで訪れる人を増やしたい、交流人口を増やしたいといった目的であった。しかし、今のトレンドを考えるとできるだけ長期滞在してもらいそのまちの暮らしを体感してもらおうのが一番響く旅行スタイルであるので、地元の人がすごく楽しそうに暮らしていることが大事だということになった。
- ・そうすると、上高地にだけ来た観光客、松本城を見に来ただけの観光客が、川沿いとか街中のオープンテラスで楽しそうにしている市民を見て、松本ってなんか楽しそうだから今回は松本城だけ見て帰ってしまうけれどもう1回来たいと思ってもらえたり、こんな自由なまちだったら2拠点居住をしてみたいと思ってもらえるかもしれない。結果的に旅行代理店がプロモーションするのではなくて、実際に訪れた観光客が目にして感じたことを個人のSNSで発信して、その連鎖で「なんか松本いいらしい」となるのではないかという仮説である。
- ・そのくらいの解像度で伊那市の目指すべき方向性と、それをいくつかの要素として3本柱とか5本柱を立てて、その要素が目指すべき方向性にどうつながるか整理できると、発散フェーズから集約フェーズになるきっかけになるのかと思う。
- ・今までに挙がっている「情報発信」もある種の手段であるので、情報が集まり発信できると暮らしがどうなるのか、どういう豊かさにつながるのかといったことを共有できると、市のビジョンと個々の活動につながりが見えてくると思う。

○新雄太氏

- ・「対話・つながり・実現の場」というタイトルが良いと思う。「実現」が入っていることで「実現」していく人を増やしていきたいという気持ちが表れている。
- ・今までの「対話・つながり・実現の場」の参加者が多いのにも驚いた。
- ・講演パートの持ち時間は25分間なので、塩尻市奈良井宿で取り組んでいる話をできたらと思う。100

	<p>年ほど続いた夏祭りがコロナ禍で2年間ストップしてしまった。そのときに改めて「何のための夏祭りなのか？」ということの中学生全員にアンケート調査して、ワークショップをして、実際に夏祭りが変わったという話であり、今回の主旨に沿うと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・私のいる研究室でもちょうど「共創」というキーワードに着目している。世界的にホットトピックであり、元々マーケティングで消費者とともに製品を作るというという考えであったが、現在まちづくりに応用されている。</li><li>・今小布施町で関係人口から共創人口を作り出すというプログラムに関わっている話もできるとよいと考えており、その2つの事例で話題提供ができるとその後につながると思う。</li><li>・伊那市で協働のまちづくり交付金という取組があるが、活用状況はどうか。 →伊那市のまちづくりに活用されているが、市内の各地域自治体に配分されており、各地域協議会の裁量で地域の活動に割り振られている。ある程度自由に使える交付金であり、5人以上の市民で作るグループが手を挙げることは可能である。（事務局）</li><li>・新しい補助金等を作らなくても、今ある施策をうまく活用できるとよいと思う。</li><li>・当日の流れで違う話をしてしまうかもしれないが、参加者の反応に合わせてお話できたらと思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まちづくりの交付金など、市民が活用できるリソースが一覧表などで情報提供できるとよいと思う。</li><li>・「共創」の話も、自分が携わっている JST(国立研究開発法人科学技術振興機構) のプロジェクトがまさに「共創の流域治水」というプロジェクトなので、その話題も議論できたら面白いと思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今日お二人からいただいたご意見を踏まえて、チラシ作成など広報準備にむけて動いていきたい。お忙しいところありがとうございました。</li></ul>	<p>次回 WG で、周知広報できる状態まで「対話・つながり・実現の場」の内容を固める。</p>
--	--	--

■今後のスケジュール

<次回 WG>

- ・2026年1月30日(金)15:00～ 市役所2階第2委員会室（オンライン併用）

<次回「対話・つながり・実現の場」>

（まち歩きによる講師お二人へのまちなかの説明）

- ・2026年3月1日(日)9:00(仮)～

（「対話・つながり・実現の場」）

- ・2026年3月1日(日)13:00～ 伊那市生涯学習センターいなっせ 5階会議室